

電業特報編集部・プチ特集 2020.04-1

目標は国際アート・カルチャー都市の構築！ 渋谷とも新宿とも違う方向性を模索する池袋

～池袋駅周辺で進む独自の顔をもつまちづくり～

(取材・構成／本紙編集部)

写真1 / 中央左の高層ビルがハレザタワー。右の2棟はホール棟と新区民センター



☆おじさんたちの聖地から若者が暮らしたい街へ

本紙先週号のコラム《現場風景・あかり光景 90》では、『日本のサブカルチャーのセンター的な都市を目指す!? 池袋の楽しい野心～池袋のセンターコア・エリアにはアニメ文化がよく似合う～』と題して、池袋駅周辺で進む新たなまちづくりの模様を、ほんのサワリだけご紹介した。

本欄はいわばその続きと拡大版。「変わりゆく池袋の今」を写真構成でざっくりとご紹介していきたい。

実は同じテーマで1年ほど前にも特集したことがある。そのとき未完成だった高層ビル（西武鉄道本社跡に建てられた高層ビル・ダイヤゲート池袋など）がその間に完成したりして、池袋駅周辺はさらに大きな変貌を果たしつつある。

その変貌の背景には、さまざまな目的や要因が絡まっているわけだが、キッカケの一つに池袋駅の乗降客数の大幅な下落がある。

たとえば JR、小田急電鉄、京王電鉄、東京メトロ、

*本文、後略